

県内医療機関におけるアレルギー疾患医療に関する調査結果

1 調査目的

平成30年度に、愛知県のアレルギー疾患医療の状況を把握するため、日本アレルギー学会専門医が、在籍する医療機関を対象に、アレルギー疾患医療（検査や指導等）の実施状況の調査を行い、アレルギー疾患患者への情報提供及び実施状況の分析を行った。

本年度は調査の実施から2年経過することから情報の更新をする。

2 調査対象医療機関

日本アレルギー学会**専門医が在籍する医療機関**（185機関）（拠点病院を除く）

3 調査内容〔別紙1、2〕

- ・アレルギー疾患医療について（11項目についての実施の有無等）
 - ①食物経口負荷試験の実施
 - ②プリックテストの実施
 - ③アレルゲン免疫療法の実施
 - ④パッチテストの実施
 - ⑤生物学的製剤による治療の実施
 - ⑥看護師によるスキンケア指導
 - ⑦薬剤師による治療薬服薬・吸入指導
 - ⑧栄養士による食物アレルギー栄養指導
 - ⑨エピペン自己注射の指導管理
 - ⑩「生活管理指導表」の作成
 - ⑪小児アレルギーエデュケーターの在籍
- ・特に力を入れていること
- ・課題、問題点等

4 回答状況

134機関（回答率72.43%）

5 調査結果（令和2年10月1日現在）

（1）アレルギー疾患医療について〔別紙1、2〕

ア 県全体の実施割合：（実施医療機関数／人口10万人）

〔実施医療機関数／回答医療機関数〕

〔高い項目〕

- ⑨エピペン®自己注射の指導管理：(1.47) [約76%]
- ⑩「生活管理指導表」の作成：(1.21) [約62%]
- ③アレルゲン免疫療法の実施：(1.02) [約53%]

〔低い項目〕

- ⑧栄養士による食物アレルギー栄養指導：(0.57) [約29%]
- ④パッチテストの実施：(0.28) [約14%]

⑪小児アレルギーエデュケーターの在籍：全体の(0.21) [約11%]

※小児アレルギーエデュケーター

一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会が認定するアレルギー専門コメディカル(看護師(准看護師を含む)、薬剤師、管理栄養士)の認定制度。

高度な知識と指導技術を習得し、アレルギー専門医、他職種コメディカルと協働してアレルギー疾患をもつ子供達のQOL向上に貢献する。

イ 二次医療圏ごとの状況

〔名古屋・尾張中部医療圏〕

- ・医療機関数が他の医療圏に比べ多い。
- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い。

〔海部医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より低い。

〔尾張東部医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い。

〔尾張西部医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い。

〔尾張北部医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い

〔知多半島医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い。

〔西三河北部医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より低い。

〔西三河南部東医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より低い。

〔西三河南部西医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い。
- ・2年前の調査と比較して専門医が在籍する医療機関が大幅に増加している。

〔東三河北部医療圏〕

- ・医療機関数が少ないため(1機関)、割合の変動が大きい。

〔東三河南部医療圏〕

- ・多くの項目で実施割合が県平均値より高い。

(2) 特に力を入れていること(71/146機関※) [別紙2]

(3) 医療機関が感じている、課題・問題点等について(35/146機関※) [別紙3]

※回答があった診療科を1として集計したもの。(病院のみ)